

## 私たちにとってのMINAMATAを考える

水俣フォーラム 実川悠太

### 1. 水俣病事件とのかかわり

- ・ 1972 年 3 月、チッソ東京本社前座り込みテントを訪ねて
- ・ テント組・宿舍組・事務所組の事務所へ
- ・ 川本輝夫の言葉「大学が今のままなら水俣病がいくつあっても足りん」

### 2. 目的意識の変遷

- ・ 「この人たちの役に立ちたい」 + “革命” 寄与幻想
- ・ 『わが死民——実録水俣病闘争』（渡辺京二の実質編集、1972 刊）を遅れて読んで
- ・ 浜元フミヨの言葉「人間な何のために生まれてきたかと思うか」「あの頃が花だった」
- ・ 緒方正人の言葉「罪深いチッソこそ救われなければならない」
- ・ 89 年の水俣工場前座り込み解除——実力闘争の終焉

### 3. 「水俣・東京展」開催へ

- ・ 水俣病歴史考証館の展示制作——アートディレクター市川敏明との出会い
- ・ 『グラフィック・ドキュメント スモン』編集で学んだ和解の力と水俣の特殊性
- ・ 92 年から毎月例会の準備会で趣意書ほか呼び掛け準備
- ・ 94 年に実行委員会発足——最初期の支援者・青山俊介の参加
- ・ 土本典昭による水俣病患者遺影の複写巡回
- ・ チッソ・国・熊本県・水俣市にも参加を呼び掛ける
- ・ 16 日間開催、30000 人来場、総支出 1 億 5000 万円
- ・ 原田正純・筑紫哲也ら「東京だけで終わっていいのか」

### 4. 水俣フォーラム

- ・ 水俣・東京展実行委員会の趣意書・展示物・負債・名簿を引きつぐ
- ・ 現在：会員約 1000 人、会友約 16000 人
- ・ 患者家族・チッソ関係者・水俣市民の参加・入会
- ・ 学生ボランティアの進路に影響

### 5. 水俣病事件の特殊性——なぜ終わらないのか、何が魅力的なのか

- ・ 日本近代におけるチッソの重要性……「新興財閥の雄」、朝鮮窒素
- ・ 水俣病は治らない……大気汚染ぜんそくやカドミウム腎症は回復する
- ・ 患者への敵視と差別の厳しさ……他に例のない「チッソの街」
- ・ 被害民の意識と生活……渡辺京二「生活基層民」の最後の村

## 6. 私たちの時代

- ・ 人類史上最も恵まれた近現代……飢えから解放 + 自由と平等の標榜  
人類1 人あたりの GDP の変化（アンガス・マディソンによる統計）  
紀元1 年 ▶ 1000 年 ▶ 1600 年 ▶ 1820 年 ▶ 1913 年 ▶ 2003 年  
\$467            \$450            \$596            \$667            \$1526            \$6516
- ・ 持続しない経済成長（セルジュ・ラトゥーシュによる）  
全世界の GNP 成長率を年 3%とすると1 世紀で 31 倍、2 世紀で 963 倍
- ・ あらゆるものの商品化、市場化、競争化とそのための国民国家システム
- ・ 結果としての環境汚染、他の生物絶滅、肉体と精神の病い
- ・ そもそも人間とは何だったのか

## 7. 「水俣病 70 年」

- ・ 人間と社会を考えるために、水俣病患者への偏見・誤解をなくすために
- ・ 1 月 24 日～3 月 14 日、東京周辺 8 都市で毎週「水俣病講演会」
- ・ 4 月 4 日（土）東京国際フォーラムで「水俣病 70 年記念講演会」
- ・ 11 月 25 日（水）～29 日（日）渋谷ヒカリエで「水俣病 70 年展」